

わかると快感!

Z会ナビ

算数

理科

社会

お題

オシャレなアワビ



海の中で、小さなアワビを見つけました。よく見ると、殻には緑色の部分と茶色の部分があります。殻の色にこのようなちがいができた理由を考えて答えなさい。



アワビは巻き貝

高級食材として有名なアワビ。平たい形をしています。サザエやカタツムリなどと同じ、巻き貝の仲間です。よくみると、かなりゆるやかではありますが、ちゃんと殻が巻いています。巻き貝の仲間は、大きくなるときに殻の一番外側に新しく殻が作り足されていきます。そのため、殻の頂点(写真では左端)には、生まれたばかりの時に作られた部分がそのまま残っています。

さて、この海の中で見つけた小さなアワビですが、ある部分を境に緑色の部分と茶色の部分に分かれていました。殻の頂点がある側が緑色なので、小さいころに作られた部分が緑色で、ある時から茶色の殻が作られるようになったようです。このアワビの殻は、なぜこのような色になったのでしょうか。

アワビの栽培漁業

アワビを見つけたこの海では、アワビの栽培漁業が行われています。栽培漁業とは、ある程度大ききまで人が育てた後に放流し、自然の中



イラスト・瑞木 匠

殻が表す
育ち方

でさらに大きく育てから漁獲する漁業です。

自然の中にいるアワビは、さまざまな海藻を食べて生きています。しかし、栽培漁業のために小さなアワビを育てている施設では、おもに人が用意した餌を食べて育ちます。そこで育てられているアワビの殻は、緑色になります。

アワビの殻の色から分かること

アワビの殻は、アワビが餌として食べたものから作られます。緑色の殻は、人にあたえられた餌に含まれていた成分によるものなのです。一方、茶色の殻は、自然の海に放流されてから、さま

ざまな餌を食べて作られた殻です。海の中で見つけたこのアワビは、緑色の部分の大きさまで人に育てられ、そこから先は自然の海で育ったことで、殻の色にこのようなちがいができたのです。

自然の海で生まれ、育ったアワビの殻は、緑色の部分はなく、全て茶色になります。逆に、放流されず、大きくなるまで人に育てられた養殖のアワビの殻は、全体が緑色になるのです。

ここで、もう一度問題の写真を見てみましょう。緑色の部分でも、最初は茶色が混ざることなく緑色だけですが、途中には少し茶色が混ざった部分もあります。このことから、人に育てられている間にも、途中で餌が変わった時期があったと考えられます。殻の色を見るだけで、そのアワビがどのように育ってきたのかを知ることができるのです。

もし、今後アワビを食べる機会があれば、ぜひ殻の色を観察してみてください。殻の頂点の近くだけが緑色であれば栽培漁業のアワビ、全体が緑色であれば養殖のアワビ、すべて茶色であれば自然の海で生まれ育ったアワビということになります。(Z会・鳥越賢)

! 今回の教訓

生き物の現在の姿を観察することで、その生き物の育ち方を知ることができます。



鳥越賢さん 2010年Z会入社。小学生向けの理科の教材編集を担当。生き物が大好きで、妻と2人の娘とたくさん生き物に囲まれて暮らす。山口生まれ広島育ち。